

情報社会学部

● 情報社会学科

(社会学・現代ビジネスコース)
(総合情報コース)

■情報社会学部という学部

情報社会学部は、2012年4月に誕生した比較的新しい学部です。日本全国に約800校ある大学の中で大阪経済大学が最初に情報社会学部を設置しました。情報社会学部の英語名は「Faculty of Information Technology and Social Sciences」です。情報技術だけではダメ、社会科学だけではダメ。最新のIT（情報技術）の理解と修得、社会科学の理論と実践、という2つの意味を学部名に込めて、情報社会学部を設置しました。

情報社会学部では、人材養成の目的と教育目標を以下のように定めています。

情報社会学部では、現代社会の様々な問題を発見・分析・解決する能力のある人材を養成する。情報社会学部が学問対象とするのは、私たちが暮らす社会そのものであり、この社会で起きるさまざまな事象に多面的にアプローチすることで、社会学をはじめ、経済学、情報学など諸領域の学習から、社会に対する幅広い視野と具体的な分析手法、そして問題を解決するための企画や発想力を養い、社会をリードする意欲のある人材を育成する。

■情報学の最先端を学ぶ

21世紀になった頃から情報技術は飛躍的に発展し、社会が大きく変貌しました。Amazon.comにみられるように、インターネットにより企業・ビジネスが変わっただけではなく、TikTokやInstagramにみられるようにコミュニケーションの手段や社会が変わりました。今日では、IoT（Internet of Things）でセンサーや機器等、全てのモノと人がインターネットでつながり、様々な知識や情報が共有されるようになりました。それらのビッグデータを人工知能（AI）が解析し人間社会にフィードバックすることで、より豊かで快適な未来社会の実現が期待されています。生成AIも実用化されました。このような社会変化のなか、求められる知識や能力も変わってきました。どのような分野の仕事であれ、数理・データサイエンス・AI・コンピュータを日常生活や仕事等の場で使いこなすことができ、日本語・英語でコミュニケーションが取れる人材のニーズが高まってきています。

■情報技術により社会課題を発見・解決する

現在の日本や世界は様々な課題を抱えています。情報技術を活用し、社会課題を発見・解決し、より豊かで快適な暮らしを実現できれば、とても素晴らしいと思いますし、皆さんの将来の活躍の場も広がると思います。いくつかの領域の学びを組み合わせ、例えば、各個人のリアルタイムの生活データから健康促進や最適医療につなげたり、気象データ・生育情報・市場情報を解析し農業ビジネスの効率化を目指したり等、皆さんはツールとしての情報技術を学び、自由自在に操ることができる「レベル1」、ビジネス・チャンスにつなげていく「レベル2」、新たに創り出していく「レベル3」というふうに、段階的に知識と技術を磨いていってください。

■多面的な視点・アプローチの大切さ

大学の学びを通じて皆さんがより良い未来社会やより豊かな人生を実現する力を手に入れられるように、情報社会学部では2コース4領域を設け、複数の領域の学びを組み合わせ多面的なアプローチで現代社会における諸課題を解決できるようにカリキュラムを編成しています。総合情報コースの中には情報デザイン領域とデータサイエンス領域を、社会学・現代ビジネスコースの中には社会学領域、現代ビジネス領域を設け、学生が専門分野の複数の領域をまたがる自由な学びをデザインできるようにカリキュラムを編成しています。ある領域を深く学ぶことで解決できる課題もありますし、複数の領域からの多面的なアプローチを組み合わせで解決できる課題もあります。皆さんの興味や将来像に応じて幅広く主体的に学び、高度な専門性とともにも多面的な視点・アプローチを身につけるようにしてください。

■「人生100年時代」に求められる学生生活

平均寿命は年々伸び続け、大学卒業後の社会生活の期間は長くなってきています。この先の皆さんの暮らしや社会も、変化し続けていくことと思います。大学では授業を通じてしっかりと学ぶとともに、授業だけの生活ではなく、クラブ・サークル活動や海外留学、ボランティア活動、インターンシップ、企業・社会活動等、様々な活動に積極的に参加・チャレンジし経験してみるのが良いと思います。授業や学生生活を通じて、皆さんの人生の基盤となる3つの能力、すなわち、一歩前に踏み出し失敗しても粘り強く取り組む力（Action）、疑問を持ち考え抜く力（Thinking）、多様な人々とともに目標に向けて協力する力（Teamwork）を身につけ、それらに加えて情報社会学の諸領域における実学的な専門知識と技能を磨き続けることで皆さんが長く良い人生を歩めるように、情報社会学部での学生生活を過ごして下さい。

情報社会学部の3ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大学の定める全学的な学位授与の方針に基づき、情報社会学部が示す以下の知識や能力、姿勢を備えた者に学士（情報社会学）を授与します。

（情報社会学部DP1）

新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力

- ・情報社会学の諸領域を横断的に学んで実践的な思考法を身に付け、現代社会の諸問題を発見し、課題解決の道筋を立てることができる。

（情報社会学部DP2）

情報社会学の諸領域における実学的な専門知識と技能

- ・幅広い教養と情報社会学の諸領域における専門的な知識・技能を身に付けて、社会生活に役立てることができる。

（情報社会学部DP3）

社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力

- ・多様性を尊重して主体的に他者と関わり、現代社会の諸課題に関心を持って、その解決に意欲的に取り組む姿勢を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

情報社会学部の学位授与の方針に掲げた知識や能力、姿勢を身に付けるため、全学の教育課程編成・実施の方針に基づき学位プログラムを以下の通り編成します。

（情報社会学部CP1）

全学共通科目では、幅広い教養の修得や学びの土台づくりのために語学科目・広域科目を編成する。

- ・語学科目では、多文化理解を深めるとともにコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・広域科目では、人文科学・社会科学・自然科学の科目群と、キャリア形成科目において、幅広い教養と生涯にわたって生き抜くための思考力を身に付ける。

（情報社会学部CP2）

学生が専門分野の諸領域を自らの関心に応じたバランスで修得し、複数の領域の学びを組み合わせることで多面的なアプローチで現代社会における諸課題を解決できるよう、情報社会学部では、社会学／現代ビジネス／データサイエンス／情報デザインという4つの専門領域を設ける。

4つの専門領域のうち社会学／現代ビジネスの2領域を「社会学・現代ビジネスコース」として、データサイエンス／情報デザインの2領域を「総合情報コース」として、基幹科目、コース導入科目、発展科目、演習科目等を置き体系的に教育課程を編成する。

□社会学領域（社会学・現代ビジネスコース）

社会学の諸理論と社会調査、統計、ICT活用能力を身に付け現代社会で活躍するための専門性の高い科目群を提供する。

□現代ビジネス領域（社会学・現代ビジネスコース）

現代ビジネスと財務の諸理論、データ分析とICT活用能力を身に付け現代社会で活躍するための専門性の高い科目群を提供する。

□データサイエンス領域（総合情報コース）

高い水準のICT、プログラミング、アプリケーション開発、データ分析能力を身に付け現代社会で活躍するための専門性の高い科目群を提供する。

□情報デザイン領域（総合情報コース）

ICTを駆使した情報デザイン技術とメディアコンテンツ制作、企画プロデュース能力を身に付け現代社会で活躍するための専門性の高い科目群を提供する。

(情報社会学部CP3)

演習およびいくつかの科目では、実践的な講義やグループワーク等による協働を効果的に進められるよう、少人数教育科目を編成する。

- ・1年次に専任教員が担当する基礎演習を置き、グループワーク等を通じて大学での主体的な学びの方法を身に付ける。
- ・2年次秋学期以降には、所属する分野の学びを実践的に体現する主体性を獲得できるよう、専門ゼミ教育を実施し、学びの集大成として「卒業論文」を書き上げるための卒業研究（必須）を置く。
- ・その他の専門科目においても、少人数教育の効果を重視する実習系科目を中心に、クラス分けや履修人数の制限などを行う。

これらの教育課程について、「大阪経済大学アセスメント・プラン」に基づき、様々な角度からの評価（試験・レポート、小テスト、外部アセスメントテスト等）をすることにより学修成果を把握します。

また、教育課程における各授業科目については、シラバスに到達目標を定めどのように評価するかを記載することで質を保証するとともに、教育課程全体の評価・検証の状況を把握します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

情報社会学部の教育目標に定める人材を育成するため、学位授与の方針に照らして、次のような意欲と能力を備えた学生を受け入れます。

(情報社会学部AP1)

現代社会におけるさまざまな分野に関心を持ち、情報社会学部の教育課程を学ぶ上で必要となる国語、数学、英語、社会等の基礎学力を有する者。

(情報社会学部AP2)

現代社会の多面的な理解に向けて、学内外の諸活動に積極的に取り組み、能動的に学問に触れ、知識を深めることに意欲をもつ者。

(情報社会学部AP3)

現代社会における諸課題の解決に向けて、他者と積極的にコミュニケーションを図り、互いを認め合い、切磋琢磨することに意欲をもつ者。

上記のような者を受け入れるために、以下の入学試験において公平かつ適正に選抜します。

【総合型選抜】【学校推薦型選抜】【一般選抜】【社会人入試・国際留学生入試】

(各選抜方式の詳細は「全学アドミッション・ポリシー（6頁）」を参照してください)

カリキュラムの概要

情報社会学部が提供するカリキュラムは、情報化が既存の学問分野を横断して進む現代社会についての新しい教育体系を提供しています。広い学問領域の科目が開講されているので、どんな科目を履修したらいいのか、最初はわからないかもしれません。しかし履修のための指針は、コース制の設定や卒業必要単位数の配分を通して示しています。少しずつでよいので自分の関心と目標を定めて、自分自身の「情報社会学」を作り出していきましょう。

そのとき、自分を固定的にとらえないようにしましょう。変化する社会のなかで、思い込んだ自分にこり固まっていたら、結局は、変化する時代の流れのなかで自分の居場所を見失ってしまうかもしれません。変化の波に乗れるのは変化する若者です。「広い視野をもって、広く学ぶ」ことによって、波に乗ってください。

特徴

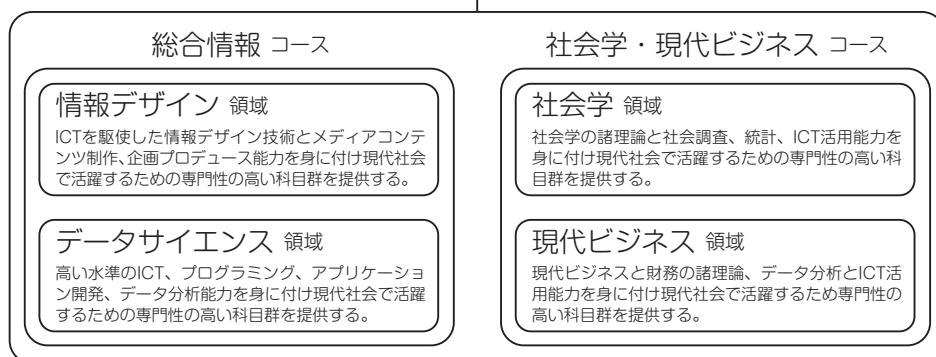
情報社会学部のカリキュラムのひとつの特徴は、1年次に「基幹科目」を必修科目として配置し、社会学、会計学、情報学、情報スキルの基礎から学習を開始し、4年次に「卒業研究」を必修科目としていることです。「基幹科目」と「卒業研究」を必修科目としているのは、スタートとゴールが重要だと考えているからです。スタートで広くしっかりと基礎を作っておくと、その後の学習の方向を定めやすくなります。ゴールを定めておくと、自分の学習の到達点を確認することができます。

もうひとつの特徴は、2年次からすべての学生がコースに所属するコース制をとっていることです。情報社会学部では、コースとして「総合情報コース」と「社会学・現代ビジネスコース」の2コースを設けています。

2つのコース・4つの領域

コース制を取り入れているのは、スタートとゴールのあいだの学習過程で、興味や将来像に応じて学習目標を自分で設定してほしいからです。なぜなら入学時に学習目標や専攻領域を細かく決めてしまっていると、授業を受けているうちに興味が変わったり、専攻領域が思っていた内容と違っていたり、というミスマッチがしばしば起こってしまうからです。コース制は、数多くある科目の中から履修する科目を選択する際の学習指針を提供することになります。

情報社会学部情報社会学科



学生が専門分野の諸領域を自らの関心に応じたバランスで修得し、複数の領域の学びを組み合わせることで多面的なアプローチで現代社会における諸課題を解決できるよう、情報社会学部では、社会学／現代ビジネス／データサイエンス／情報デザインという4つの専門領域を設け、4つの専門領域のうち社会学／現代ビジネスの2領域を「社会学・現代ビジネスコース」として、データサイエンス／情報デザインの2領域を「総合情報コース」として教育課程を編成しています。

所属するコースは1年次終了時に選択します。各コースに定員を設けていないので、好きなコースを選ぶことができます。また2年次以降もコース変更を認めているので、関心の変化にも対応できるようにしています。

各コースには「コース科目」を設けてありますが、自分が所属するコース以外の「コース科目」も履修できます。しかも、所属コースによる制約（卒業必要単位数）をできるだけ少なくしています。したがって、情報デザイン領域、データサイエンス領域、社会学領域、現代ビジネス領域のうちのどれかに特化して学習することもできますし、あるいは、より広く領域横断的に多面的に学ぶこともできます。

履修の流れ

1年次には、「全学共通科目」を学びながら、情報社会学部の「(A) 区分 基幹科目」をおもに学習し、幅広い学習領域の基礎を修得します。「(A-1) 区分 基幹科目」は必修科目ですから必ず履修し、卒業までに4科目とも単位を修得しなければいけません。1年次に単位を修得できなかった場合には2年次以降に再履修して修得することになります。また1年次春学期には「情報社会学部基礎演習」を必ず履修します。

「(A-2) 区分 コース導入科目」も、その多くが1年次に開講されます。1年次終了時に所属するコースを選択する際の判断材料となるでしょう。

2年次からは多くの「(B) 区分 コース科目」が開講されます（一部は1年次開講）。2年次の秋学期からは「演習」（ゼミナール）もはじまります。ゼミナールは、少人数クラスで専門的に学ぶ科目です。大学の多くの科目は講義を聴講し、教えてもらう科目ですが、ゼミナールは自分で調べ、考え、発表するための科目です。情報社会学部の全教員が開講します。所属するゼミナールは2年次の春学期に決めます。必修科目である4年次の「卒業研究」につながる重要な科目ですからよく考えて選んでください。所属するゼミナールと所属するコースは必ずしも対応している必要はありません。したがって、例えば「総合情報コース」に所属していても、社会学領域や現代ビジネス領域の授業を担当する教員のゼミナールを選択することもできます。ただしゼミナールには定員が決められています。

2・3年次以降には、より専門的に学びたい人のための「(C) 発展科目」が用意されています。深く学びたい分野が決まった学生にぜひ履修してもらいたい科目です。

科目区分

(1) (A-1) 区分 基幹科目

専門科目を学ぶうえで理解しておく必要のある基礎的科目4科目を(A-1)区分に配置し、すべてが1年次に開講されます。大学に入学したばかりの学生に専門分野がどのようなものなのかを学んでもらうための入門科目です。例えば、「現代社会とコンピュータ」などの情報系の科目では、コンピュータの意義やパソコンの操作を学び、コンピュータについての最低限の知識を修得します。4科目すべてが必修科目なので必ず履修して単位を修得してください。

(2) (A-2) 区分 コース導入科目

「コース導入科目」は2つのコースに対応する形で、総合情報のコース導入科目を7科目、社会学・現代ビジネスのコース導入科目を8科目、配置しています。専門科目（コース科目）を履修するための基礎科目として開講されます。2つのコースに区分していますが、それぞれ4単位以上、合計で14単位以上が卒業必要単位数ですから、広く学びつつ、コースや領域を意識して履修してみてください。もちろん全科目を学んでもかまいません。

(3) (B) 区分 コース科目

各コースに所属する学生により多く履修してもらいたい科目が「コース科目」です。「総合情報」、

「社会学・現代ビジネス」の2コースについて、それぞれ約50科目が配置されています。

「コース科目」のほとんどが2年次配当です。3年次配当の科目は、先行履修条件を課しているわけではありませんが、一定以上の知識や関心をもっていないと効果的な学びが容易ではない科目です。「コース科目」のすべてが選択科目ですが、各学生が所属するコースの「コース科目」については、卒業必要単位数として26単位が設定されています。しかし、26単位は決して大きな制約にはならないでしょう。したがって、所属コース以外の「コース科目」を多数履修することもできます。卒業必要単位数を超えて履修することは自由ですから、自分の関心に沿っておいに学んでください。

(4) (C) 区分 発展科目

「選択科目」のうちの「(C-1) 発展科目」は、専門科目をさらに深く学ぶための科目です。関連するコース科目等を履修したうえでさらに専門的に学習したい学生向けの科目を配置していますので、積極的に履修してみてください。2年次から履修できる科目も多く配置しています。(A) 区分、(B) 区分の剰余単位を含め、「(C) 区分 発展科目」から40単位を修得する必要があります。なお、「全学共通科目〔外国語科目・広域科目〕」の剰余単位および本学科に配当されていない「全学共通科目〔オープン科目〕」についても最大16単位まで「(C) 区分 発展科目」に含めることができます。情報社会学部の範囲を超えてさらに広く学習したい学生は、自分の関心に沿って履修することができます。

(5) (D) 区分 演習科目

演習科目の意義は少人数のクラスできめ細かい教育を行うことにあります。しかしそれだけではありません。他の科目ではあまり経験することができない議論や発表などを行う重要科目であり、これこそが大学らしい科目だと言えます。この区分の科目は、ゼミ（ゼミナール）と呼ばれ、情報社会学部に所属するすべての教員がゼミを担当します。

「情報社会学部基礎演習」は入学してすぐの1年次春学期にすべての学生が履修するもので、本の読み方、発表の仕方、大学での学習の仕方などを学びます。大学での学習についてわからないことがあれば相談しましょう。

専門ゼミである「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」は2年次秋学期から3年次秋学期まで開講され、おもに卒業研究の準備としての学習をします。これらは必履修科目であり、各教員が担当するゼミナールのいずれかを履修しなければいけません。

卒業論文（あるいは卒業制作）を作成するための「卒業研究」は4年次に通年で開講される必修科目です。卒業論文（あるいは卒業制作）を提出して、必ず単位を修得しなければいけません。卒業研究は、知識を教えてもらうだけでなく、知識を作り出すという大学本来の機能を体験するためのものであり、大学における学びのゴールとなるものです。

コース制について

情報社会学部の学生は、各自の関心にしたがって2年次春学期からいずれかのコースに所属することになります。

- ・ 総合情報コース
- ・ 社会学・現代ビジネスコース

【コースの定員】 定員枠は設けていません。

【コースの決定】 1年次終了時（秋学期の冬頃）に2年次春学期からのコース登録を行います。

【コースの科目】 卒業するために、(B) 区分「コース科目」からは、所属するコースの中から26単位修得する必要があります。所属するコースの中から26単位を超えて修得した (B) 区分単位および所属するコース以外で修得した (B) 区分単位は、(C) 区分の単位数に含めることができます。

【演習との関係】 所属するコースに関わらず、情報社会学部で開講しているどの教員の演習にも応募することができます。ゼミナールには定員が決められています。所属するゼミナールは2年次の春学期に決めます

【コースの変更】 2年次の秋学期より、各学期の成績発表時に、他のコースへ変更することができます。その場合には、成績発表から履修登録期間の間に教務部に申し出てください。

履修方法について

情報社会学科における学科専攻科目の卒業必要単位は100単位（全学共通科目を含めると124単位）で、その内訳は以下のとおりです。詳細は、巻末の「情報社会学部情報社会学科 授業科目年次配当表」を参照してください。

(A-1) 基幹科目（必修）、(A-2) コース導入科目（選択必修）、(B) コース科目、(C-1) 発展科目、(C-2)、(D) 演習科目（必履修、卒業研究は必修）の区分に分けて履修方法の要点を説明します。

学科専攻科目の卒業必要単位

(A) から (D) の科目区分ごとに定められた卒業必要単位を満たすように授業科目を履修していく必要があります。なお、学科専攻科目の授業科目には半期2単位、半期4単位、通年4単位の科目があります。

1. 半期2単位科目……1週間に1回授業が行われる半期完結科目です
2. 半期4単位科目……1週間に2回授業が行われる半期完結科目です
3. 通年4単位科目……1週間に1回授業が行われる通年完結科目です

【学科専攻科目の卒業必要単位】

| 科目区分 | 卒業必要単位数 | | 合計 |
|---------------|---------|---|-------------|
| (A-1) 基幹科目 | 8単位 | すべて必修 | 100単位 ※2 |
| (A-2) コース導入科目 | 14単位 | 「総合情報」コース導入科目から4単位以上、「社会学・現代ビジネス」コース導入科目から4単位以上、合計14単位以上が必要 | |
| (B) コース科目 | 26単位 | 所属するコースから26単位が必要 | |
| (C-1) 発展科目 | 40単位 | (A-2) および (B) の余剰単位（所属コース以外の単位も可能）を含めることができる。 | |
| (C-2) | | (C-2) 全学共通科目の単位からは最大16単位を含めることができる。 | |
| (D) 演習科目 | 12単位 | 情報社会学部基礎演習、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは必履修※1 卒業研究は必修 | |

※1 必履修科目は、必ず履修しなければならない科目です。ただし、必修科目ではないため、単位修得ができなかった場合は、(B) (C) 区分で代替すること。

※2 卒業必要単位数は、全学共通科目の外国語科目と広域科目、24単位を加えた124単位。

(1) 基幹科目 (A) 区分：必修8単位と選択必修14単位

1) 基幹科目 (A-1) 区分：4科目8単位（必修）

次の4科目8単位は必修科目であり、必ず修得しなければなりません。配当年次に指定されたクラスで履修します。単位を修得できなかった場合は、卒業要件を満たすために再履修が必要です。

| 授業科目 | 配当年次 | 単 位 | 開講時期 |
|-------------|------|-----|------|
| 基礎社会学 | 1 | 2 | 春学期 |
| 企業分析の基礎 | 1 | 2 | 春学期 |
| 現代社会とコンピュータ | 1 | 2 | 春学期 |
| 情報リテラシー | 1 | 2 | 春学期 |

- これらの科目は各配当年次に必ず履修しなければなりません。
- 受講クラスが指定されています。「時間割表」で確認のうえ、履修してください。



【再履修について】

必修科目が不合格となった場合、必ず再履修して単位を修得しなければなりません。

2) コース導入科目 (A-2) 区分：7科目14単位以上 (選択必修)

「総合情報」「社会学・現代ビジネス」それぞれから4単位以上、計14単位以上を修得しなければなりません。14単位を超えて修得した単位は (C) 区分の単位数に含めることができます。

(2) コース科目 (B) 区分：所属コースから26単位以上

所属するコースから26単位以上修得しなければなりません。26単位を超えて修得した単位および所属するコース以外の単位を修得した場合は、(C) 区分の単位数に含めることができます。

(3) 発展科目 (C) 区分：(C-1) 区分と (C-2) 区分と合わせて40単位以上

1) 発展科目 (C-1) 区分：(C-2) 区分と合わせて40単位以上

コース科目を発展させた科目群です。(A) 区分、(B) 区分の余剰単位を含めることができます。

2) (C-2) 区分：(C-1) 区分と合わせて40単位以上

全学共通科目【外国語科目・広域科目】の剰余の単位、および本学科に配当されていない全学共通科目【オープン科目】の単位を、最大16単位まで (C) 区分の単位として含めることができます。

(4) 演習科目 (D) 区分：12単位

演習科目 (D) 区分：5科目12単位 (卒業研究のみ4単位で他は2単位)

演習科目は「基礎演習 (情報社会学部基礎演習)」と「専門演習 (演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)」「卒業研究」で構成されています。「基礎演習 (情報社会学部基礎演習)」と「専門演習 (演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)」は必ず履修しますが、単位の修得ができなかった場合は、(B)・(C) 区分から演習代替科目として新たに単位を修得しなければなりません。「卒業研究」は必修です。

演習は特定の教員の指導のもとに、みなさんが自ら研究し、発表・討論する形式の少人数教育です。「情報社会学部基礎演習」は、大学で学ぶために必要な基礎的な技能と知識を身につけることを目的とし、1年次春学期に開講します。指導教員はあらかじめ決められています。

「専門演習」は、2年次秋学期から「演習Ⅰ」が始まり、3年次春学期の「演習Ⅱ」、秋学期の「演習Ⅲ」、4年次通年の「卒業研究」で構成されています。2.5年間の一貫した教育です。「卒業研究」では、研究の成果として卒業論文 (あるいは卒業制作) を提出します。

卒業論文 (あるいは卒業制作) の内容については、就職活動の面接試験の際にも問われることがありますので、大学生活の集大成として取り組んでください。指導教員はみなさんの希望によって決まりますが、定員を超える希望があった場合には、その限りではありません。

●「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」「卒業研究」は、原則、同一の教員が担当します。ただし、事情により、各学期終了時に他のゼミナールに異動することができることもあります。(「卒業研究」は通年科目のため途中での変更はできません。) この場合、所属ゼミと異動先ゼミ、双方の担当教員の了解のもと、教務部に「転籍届」を提出しなければなりません。

**【注意！】**

4年間で卒業するには「演習Ⅲ」の単位修得の有無に係わらず、4年次に「卒業研究」を履修し単位を修得しなければなりません。

- 「卒業研究」を修得できなかった場合は卒業延期となり、翌学期以降に再履修もしくは (B) (C) 区分の中から新たに4単位 (全学共通科目の単位は除く) を修得し、代替することができます。

先修科目について

科目の性質上、当該科目を履修する前に他の科目を修得しておくことが望ましい場合があります。本学部では制度上の制限はありませんが、シラバスを読んで各自で判断してください。シラバスを読まずに履修した場合、単位の修得が非常に困難になることがあります。

- 科目名に「△△△Ⅰ」「△△△Ⅱ」、あるいは「□□□基礎」「□□□応用」とある場合は、基本的に「△△△Ⅰ」あるいは「□□□基礎」を先修し、その後で「△△△Ⅱ」あるいは「□□□応用」を履修することが望ましい。

セメスターごとの履修最高単位数に含まない科目

- 《全学共通科目》 ①必修外国語科目の再履修、②インターンシップ、③語学研修
《学科専攻科目》 ① (A-1) 基幹科目の再履修、② (D) 卒業研究の再履修
《その他の科目》 ①大学コンソーシアム大阪単位互換科目、②関西外国語大学単位互換科目、
③資格科目



【情報社会学部の資格取得による単位認定について】

情報社会学部では、資格取得を目指す学びを通じて、その領域に関連する科目を学ぶ意識を高めてもらうことを目指しています。

以下の表に記載の国家資格等を在学中に取得した学生は、申請により、それぞれ2単位（ただし、最高で6単位）が認定されます（卒業必要単位に含まれる）。認定科目はC-1区分の「情報社会特殊講義」です。これは履修最高単位数には含まれません。また、情報社会学部では、これらの特典を利用して、できるだけ資格取得することを勧めています。

| 資格等名称 |
|---|
| 基本情報技術者 |
| 応用情報技術者 |
| 統計検定 2級 |
| 統計検定 準1級 |
| 統計検定データサイエンス発展 |
| G検定（ジェネラリスト検定） |
| CG-ARTS検定エキスパートレベルの「マルチメディア検定」 |
| CG-ARTS検定エキスパートレベルの「Webデザイナー検定」 |
| 2級ファイナンシャル・プランニング技能検定 |
| リテールマーケティング（販売士）検定 2級 |
| 宅地建物取引士（宅建） |
| 日商簿記検定 2級 |
| 「日商簿記検定 1級」、「税理士試験（1科目合格）」あるいは「公認会計士（短答式試験）」のいずれか |

履修モデル

情報社会学部では2コース4領域のうち、どこかの領域を集中的に履修することもできますし、複数の領域にまたがって履修することもできます。複数の領域にまたがって履修することはイメージしにくいかもしれませんが、ここでは、領域をまたがった6つの履修モデルについて、コース科目（B区分）、発展科目（C区分）に属す科目を紹介します。なお、ここで紹介されている科目を履修する前に基幹科目（A-1区分）およびコース導入科目（A-2区分）をある程度修得していることをお勧めします。また、履修する授業の選択や実際に授業を受ける際には、情報社会学部の履修系統図、カリキュラムマップ、各科目のシラバスも参考にしてください。

① 「情報デザイン+データサイエンス」

想定される進路：システムエンジニア（SE）、プログラマ、デザイン・印刷関連、クリエイティブ・テクノロジスト、ゲームデザイナー

| 情報デザイン | データサイエンス |
|-----------------|----------------|
| 総合デザイン論 | 企業情報システム論 |
| メディア産業論 | 情報システム設計 |
| 広告戦略論 | インターネット論 |
| 映像メディア論 | 情報ネットワーク論 |
| メディアアート論 | データベース論 |
| インタラクティブデザイン論 | データセキュリティ基礎・応用 |
| 広告クリエイティブ論 | サイバー犯罪とセキュリティ |
| 広告デザイン基礎・応用 | 情報システムの法的保護 |
| Webデザイン基礎・応用 | 人工知能技術基礎・応用 |
| ゲームデザイン基礎・応用 | プログラミング基礎・応用 |
| グラフィックデザイン基礎・応用 | Pythonプログラミング |
| サウンドデザイン基礎・応用 | Pythonとデータベース |

② 「情報デザイン+社会学」

想定される進路：広告関連、広報プランナー、コンサルタント、出版・放送関連

| 情報デザイン | 社会学 |
|-----------------|---------------|
| 総合デザイン論 | 社会調査の読み方Ⅱ |
| メディア産業論 | 社会調査論Ⅱ |
| 広告戦略論 | アンケート調査の企画と実践 |
| 色彩論 | 社会調査演習Ⅰ・Ⅱ |
| インタラクティブデザイン論 | 都市社会学 |
| 広告クリエイティブ論 | 地域社会学 |
| 広告デザイン基礎・応用 | メディア社会論 |
| 映像デザイン基礎・応用 | メディア制度論 |
| グラフィックデザイン基礎・応用 | マスコミュニケーション論 |
| サウンドデザイン基礎・応用 | ソーシャルメディアの社会学 |
| エスノグラフィ基礎・応用 | 若者論 |
| 認知とデザイン | 消費者行動論 |

③ 「社会学+現代ビジネス」

想定される進路：ファイナンシャルプランナー、金融業、地方創生事業

| 社会学 | 現代ビジネス |
|---------------|------------|
| 社会調査の読み方Ⅱ | 簿記論（初級）Ⅱ |
| 社会調査論Ⅱ | 簿記論（中級） |
| アンケート調査の企画と実践 | 原価計算論入門 |
| 社会調査演習Ⅰ・Ⅱ | 原価計算論 |
| 家族社会学 | 財務会計論 |
| 教育社会学 | 財務諸表分析Ⅰ・Ⅱ |
| 社会政策 | 金融リテラシー |
| 社会福祉論 | 社会保障論 |
| ソーシャルメディアの社会学 | 金融機関論 |
| 社会的ネットワーク論 | 時事金融論 |
| 消費社会学 | ゲーミング基礎・応用 |
| 消費者行動論 | 現代社会と労働 |

④ 「データサイエンス+現代ビジネス」

想定される進路：データサイエンティスト、FinTech（フィンテック）・DX関係、インフラ関連業界

| データサイエンス | 現代ビジネス |
|-------------------|-----------------|
| 人工知能技術基礎・応用 | ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ |
| 経済シミュレーション | ゲーミング基礎 |
| プログラミング基礎・応用 | 経済情報分析 |
| Pythonプログラミング | 労働経済学 |
| Pythonとデータベース | コーポレートガバナンス |
| 企業情報システム論 | 人的資源管理論 |
| 情報システム設計 | 組織論 |
| データセキュリティ基礎・応用 | 経営戦略論 |
| スマートフォンアプリ開発基礎・応用 | マーケティング論 |
| 空間情報処理基礎・応用 | 中小企業論 |
| 画像処理とAI | Pythonによるファイナンス |
| データ処理とAI | 実践データサイエンス |

⑤ 「データサイエンス+社会学」

想定される進路：営業・マーケティング関連、コミュニティデザイナー、ソーシャル・リサーチャー

| データサイエンス | 社会学 |
|-------------------|---------------|
| 人工知能技術基礎・応用 | 社会調査の読み方Ⅱ |
| コンピュータ統計学 | 社会調査論Ⅱ |
| データサイエンス統計学基礎・応用 | アンケート調査の企画と実践 |
| データサイエンス応用 | アンケート分析法 |
| プログラミング基礎・応用 | コミュニケーション論 |
| Pythonプログラミング | ソーシャルメディアの社会学 |
| Pythonとデータベース | 社会的ネットワーク論 |
| スマートフォンアプリ開発基礎・応用 | 都市社会学 |
| 画像処理とAI | 地域社会学 |
| データ処理とAI | 社会政策 |
| 身体情報処理基礎・応用 | 地域政策 |
| スポーツ情報論 | 観光サービス論 |
| 経済シミュレーション | 地域コミュニティ論 |

⑥ 「情報デザイン+現代ビジネス」

想定される進路：UXデザイナー、起業家、ビジネスリサーチャー、商品開発関連

| 情報デザイン | 現代ビジネス |
|-----------------|-------------|
| 総合デザイン論 | ミクロ経済Ⅰ・Ⅱ |
| メディア産業論 | 経済情報分析 |
| 広告戦略論 | 労働経済学 |
| 色彩論 | 金融リテラシー |
| 映像メディア論 | ゲーミング基礎 |
| 認知とデザイン | コーポレートガバナンス |
| 情報行動論 | 人的資源管理論 |
| インタラクションデザイン論 | 組織論 |
| 広告クリエイティブ論 | 経営戦略論 |
| 広告デザイン基礎・応用 | マーケティング論 |
| グラフィックデザイン基礎・応用 | 中小企業論 |
| サウンドデザイン基礎・応用 | 実践データサイエンス |
| エスノグラフィ基礎・応用 | 社会起業論 |

社会調査士について

情報社会学部では、あらかじめ定められた認定科目の単位を修得することによって、社会調査士の資格を取得することができます。「社会調査士」は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。

社会調査士の資格を取得するために、修得しなければならない科目（予定）は、下表の通りです。詳細は、一般社団法人 社会調査協会のホームページ（<https://jasr.or.jp/>）を確認してください。

| 授 業 科 目 | 配当年次 | 単 位 | 資格取得に関わる科目 |
|------------------------------|---------|-----|-----------------------------|
| 社 会 調 査 論 I | 1・2・3・4 | 2 | 【A 科目】 社会調査の基本的事項に関する科目 |
| 社 会 調 査 論 II | 1・2・3・4 | 2 | 【B 科目】 調査設計と実施方法に関する科目 |
| 社 会 調 査 の 読 み 方 I | 1・2・3・4 | 2 | 【C 科目】 基本的な資料とデータの分析に関する科目 |
| 社 会 調 査 の 読 み 方 II | 2・3・4 | 2 | 【D 科目】 社会調査に必要な統計学に関する科目 |
| ア ン ケ ー ト 分 析 法 | 2・3・4 | 2 | 【E 科目】 量的データ解析の方法に関する科目 ※ 1 |
| イ ン タ ビ ュ ー 分 析 法 | 2・3・4 | 2 | 【F 科目】 質的な分析の方法に関する科目 ※ 1 |
| 社 会 調 査 演 習 (ア ン ケ ー ト) I | 2・3・4 | 2 | 【G 科目】 社会調査の実習を中心とする科目 ※ 2 |
| 社 会 調 査 演 習 (ア ン ケ ー ト) II | 2・3・4 | 2 | |
| 社 会 調 査 演 習 (イ ン タ ビ ュ ー) I | 2・3・4 | 2 | |
| 社 会 調 査 演 習 (イ ン タ ビ ュ ー) II | 2・3・4 | 2 | |

※1 【E科目】 【F科目】 は、いずれかの修得が必要。

※2 【G科目】 については、「社会調査演習（アンケート） I・II」か「社会調査演習（インタビュー） I・II」のいずれかの修得が必要。また、それぞれの I と II は、同一年度の連続受講を強く推奨。

情報社会学部 履修系統図

①社会学・現代ビジネスコース

基幹科目

コース科目
は発展科目

基礎社会学

社会調査の読み方Ⅰ 社会調査論Ⅰ メディア論 国際社会学論

社会調査の読み方Ⅱ
社会調査論Ⅱ
アンケート調査の企画と実践

アンケート分析法
インタビュー分析法

社会調査演習(アンケート)Ⅰ・Ⅱ
社会調査演習(インタビュー)Ⅰ・Ⅱ
社会調査ケーススタディ

家族社会学 教育社会学
地域社会学 都市社会学
社会的ネットワーク論
消費社会学 若者論
消費者行動論
ポピュラーカルチャー
コミュニケーション論
文化人類学 ジェンダー論
社会福祉論 農村政策
地域文化論 地域政策
高齢者福祉論 社会政策
地域コミュニティ論

メディア社会学
マスコミュニケーション論
ソーシャルメディアの社会学
メディア制度論
メディアリテラシー論
国際文化論 ヨーロッパ研究
グローバルスタディーズ
ボランティア論 観光サービス論
時事国際関係論
Comparative Civilizations
Global History

企業分析の基礎

基礎経済学 経営学基礎 企業経営論 簿記論(初級)Ⅰ

金融リテラシー
コーポレートガバナンス
人的資源管理論 組織論
経営戦略演習 経営戦略論
マーケティング論
国際マーケティング論
金融機関論 時事金融論
中小企業論 社会起業論
ファンディング・ビジネス論
Pythonによるファイナンス
実践データサイエンス
戦略的意思決定論

簿記論(初級)Ⅱ
原価計算論入門

原価計算論
簿記論(中級)
財務会計論
英文会計
会計と歴史
財務諸表分析Ⅰ・Ⅱ
Financial Accounting
Accounting History

ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 労働経済学
経済情報分析 国際経済論
現代社会と労働 社会保障論
ゲーミング基礎 ゲーミング応用

社会学・現代ビジネスコース特殊講義

社会学領域

現代ビジネス領域

情報社会学部

②総合情報コース

現代社会とコンピュータ

情報リテラシー

- プログラミング思考入門
- 現代社会と人工知能
- データサイエンス基礎
- 基本情報システム論

- メディア・コミュニケーション論
- デザイン思考入門
- プレゼンテーション技法

人工知能技術基礎・応用

企業情報システム論

総合デザイン論

- コンピュータ統計学
- データサイエンス統計学基礎 応用
- データサイエンス応用
- Pythonプログラミング
- Pythonとデータベース
- プログラミング基礎 応用
- スマートフォンアプリ開発基礎・応用
- 空間情報処理基礎 応用
- 身体情報処理基礎・応用
- スポーツ情報論
- 経済シミュレーション
- 画像処理とAI
- データ処理とAI

情報システム設計

インタラクティブデザイン論

- インターネット論
- 情報ネットワーク論
- データベース論
- データセキュリティ基礎・応用
- サイバー犯罪とセキュリティ
- インターネットと著作権
- 情報システムの法的保護

- 広告クリエイティブ論
- 広告デザイン基礎・応用
- 映像デザイン基礎・応用
- Webデザイン基礎 応用
- ゲームデザイン基礎・応用
- グラフィックデザイン基礎・応用
- サウンドデザイン基礎 応用
- エスノグラフィー基礎 応用

- メディア産業論
- 広告戦略論
- 色彩論
- 映像メディア論
- メディアアート論
- 認知とデザイン
- 情報行動論 応用
- デジタルマーケティング論 応用

- 情報社会と倫理
- 情報と職業
- 情報科教育法 I・II 応用

総合情報コース特殊講義

データサイエンス領域

情報デザイン領域

情報社会学部基礎演習

演習 I・II・III

卒業研究

情報社会特殊講義

全学共通科目

情報社会学部